

都留文科大学

同窓会報

第29号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 千野文雄

山梨県都留市田原3-8-1

☎ 0554-43-4341



都留文科大学
同窓会

誇れる同窓生となり、 誇れる大学に…！

都留文科大学同窓会会長

小林 孝次



記録的な猛暑となった'10年。半世紀に渡り権力を誇示してきた地検（特捜部）の証拠改ざん事件、尖閣諸島沖の問題...等々、国内外で大きく揺れた年だと考えられる。そんな中、チリの鉱山から33名が無事救出、また人類史上初と言われる宇宙からの探査機「はやぶさ」の奇跡的な帰還...など、技術的進歩の一面を伺わせる出来事もあった。

こうした年、世界的経済不況下で超氷河期と言われる雇用及び就職活動、また少子化問題...等々、大学にとっては厳しい情勢だと考えられる。本学は公立大学法人として経営のロードマップ・学問研究など基礎的体制固めをするべく2年目の年となった。年度当初は学長不在で一抹の不安を覚える中、5月に体調不良のため退任した今谷学長の後任として加藤祐三先生がその任に就いた。関係者の努力の賜で体制が整いつつある中、西室理事長さんを中心に一同がその理念に向けて確かな歩みを進めていることに安堵しているところである。

同窓会としては、'09年に群馬県支部が新しく設立され、'10年には岐阜県支部が設立の産声をあげることができた。情熱的で温かな発起人を中心に、事前の打ち合わせ・文書発送など設立準備会から記念すべき

第1回支部総会に至るまでの周到な準備、配慮の行き届いた総会運営などには頭の下がる思いだった。また、'09年の定期総会にお招きをいただいた宮城県支部でも異業種・異年齢が集う和気藹々とした雰囲気、支部の伝統や本学への思い、そして未来志向の気運を感じた。全国的には、会員相互の親睦を深めるという大きな目標の下、各支部の活動内容にも独自性と発展性を伺うことができる。何れにしても、各支部長さんを中心に地道で地域性を活かした活動の継続が必要だと思う。

歴史を振り返ると、本学は教員養成を中心とした大学なので団塊世代は教職に就いている人が多くを占めていた。そんな折、各支部で管理職への登用試験に臨む後輩のための学習会を開催したり指導にあたってきた経緯もある。今は、教員志願者が合格できるように後輩の支援にあたっている支部も多くある。一方、公務員や一般企業への就職者も増えている状況下、先輩から指導・助言を頂くなど更なる連携を深める体制づくりの構築も重要課題だと考える。

債務1千兆円、経済状況の先行き不透明感の漂う日本。この情勢下、特に就職等に関する諸問題の改善に大学当局との更なる連携が求められる。今まで以上に、現実と未来を見据えた意義ある同窓会活動の展開が求められるものと思う。今後も、多くの若者が本学を希望し、キャンパスでの有意義な学びから生きる意義を見いだせる大学生活を期待したいものである。その為には、会員一人ひとりが日々の生活や仕事に向き合う姿勢から誇れる同窓生となり、誇れる大学づくりに貢献することだと考える。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科
名誉会長	加藤祐三		福島支部長	大竹豊紀	S39初	広島支部長	小谷桂司	S44初	山梨県理事	立川清則	S47初
会長	小林孝次	S46英	茨城支部長	宮内健治	S52国	鳥取支部長	飛村 淳	S42初		一瀬英治	S46国
副会長	桐井幸雄	S32初	群馬支部長	角田達夫	S49英	島根支部長	木村晴男	S43初		朝比奈一正	S39初
	木浦憲一	S46初	埼玉支部長	渡邊哲朗	S39初	岡山支部長	原田直樹	S45国		作地 真	S46国
	千野文雄	S48英	千葉支部長	林 俊之	S44初	愛媛支部長	谷川忠孝	S42初		奥脇隆樹	S45初
	亀田孝夫	S51英	東京支部長	松本多加志	S44初	徳島支部長	小倉健司	S53英		赤松金次郎	S35商
庶務会計	小幡哲明	S56国	神奈川支部長	板倉忠臣	S30初	高知支部長	清岡典代	S40国		日野原晴男	S48国
	河端雄一	S63初	山梨支部長	倉田由和	S38初	長崎支部長	西田正人	S40初	顧問	奥秋順作	S31初
	小笠原武彦	大学課長補佐	静岡支部長	清水 猶	S42国	熊本支部長	倉岡康夫	S38国		志村武男	S31商
事務局長	日向哲男	S51初	岐阜支部長	山本吉朗	S40英	宮崎支部長	荒巻孝行	S35初		後藤 敬	S33商
	浜欠亮吉	S39国	新潟支部長	池原栄一	S50初	鹿児島支部長	溝口通大	S39初		佐藤唯一	S32初
事務局次長	外川正純	S46英	富山支部長	澤井 隆	S48国	沖縄支部長	金城宏安	S33初		佐藤英雄	S38国
	加藤一雄	S53初	石川支部長	西田良治	S49国	北海道理事	当銀誠博	S39初		奥石 東	S32初
監事	淡野香百合	S39初	福井支部長	村上則夫	S46初	兵庫県理事	赤穂栄一	S40英		山縣永良	S39国
	相川洋子	S52英	愛知支部長	神谷彰彦	S54初	山梨県理事	若林四郎	S31商		勝俣武男	S41初
北海道支部長	横山 勲	S40国	三重支部長	中矢泰之	S43国		田中克己	S52初		永田清一	S46国
岩手支部長	堀籠智志	S53国	奈良支部長	瀧川佳市	S32初		吉田 一郎	S45国	※卒科＝卒業年度、学科		
山形支部長	小川秀人	S55国	大阪支部長	泉川芳夫	S49初		原 喜雄	S53初			
宮城支部長	千葉龍正	S51初	兵庫支部長	井上弘和	S40国		有泉幸廣	S46初			

「新しい大学づくり」を 目指して

都留文科大学学長

加藤 祐三



全国の同窓会、同窓生のみなさま、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は今谷学長の後を受け、2010（平成22）年7月に学長に就任しました。この間、お招きを受けて、岐阜県の同窓会設立総会と愛知県・名古屋市合同同窓会に出席する機会がありました。

本学が公立大学法人となって1年9か月が経過し、法人への移行に伴う諸問題の整理がほぼ終わりました。経営の責任者である西室陽一理事長と、教育研究の責任者である学長（副理事長を兼務）が支えあい、有無相通じて、新しい体制を本格的に進める時期に入ります。

本学の入試、教育、学生の諸活動、就職、他大学との比較などの一端を見ておきます。

少子化と空前の不況で学生確保競争が激化するなか、本学では受験者数が漸増し、夏のオープンキャンパスも好評で、参加者が増加しています。その地域分布に変化が見られるため、これから調査を行い、対応を検討します。また直近の「難易度ランキング」（『東洋経済』等）でも、東西の有名大学と伍して健闘しています。

教育の質の高さは、卒業論文（理系では卒業研究）を必修に課していることにも見られます。自分で課題を決め、資料を集め、体系的に記述する卒業論文の

作成は、卒業生に高い能力と大きな自信を与えます。今後、1分間スピーチや3分間スピーチなどの訓練も進め、社会性の涵養に努めます。

かつては卒業生の大半が教員になりましたが、今では教員になるのは卒業生の約2割であり、約8割は公務員や会社員等になります。残念ながら民間部門への就職は、金融危機後の不況下で、他大学同様に苦戦しています。

課外活動では各分野でめざましいものがあります。全日本合唱コンクール全国大会では本学合唱団が2年連続して金賞を獲得、スポーツ部門では準硬式野球部が関東甲信越大会で優勝、個人空手なども好成績を残しています。また卒業生の佐野夢加さん（文大勤務）がアジア大会の女子400メートルリレーで3位入賞、2年後のロンドン・オリンピックを狙っています。

ご承知の通り、本学は文学部に5学科を置く単科大学です。初等教育学科、国文学科、英文学科、社会学科（2専攻）、比較文化学科です。教育学部系と文学部系の学科が混在しており、学部改組の必要ありとの意見もあります。

全国の四年制大学は約770校、うち公立大学は過去20年間に倍増して80大学となり、国立大学86校に迫っています。公立大学を支える主な財源構成は、学生からの授業料等と地方交付税交付金（基準財政需要額大学分）の2つですが、本学は自主財源比率が高く、比較的健全な財源構成であると言えます。

人口わずか3万余の都留市に約3000人の学生がいます。いまなお全国各地から集まる在校生たちは、各地における先輩たちの支援をとっても心強く思っています。教職員、学生、同窓生ともども、この山紫水明の地にある大学町の誇りを胸に、いっそう努力を重ねてまいります。

本学における パソコン事始

都留文科大学退官教員
初等教育学科教授

山本 安夫



私が都留文科大学に赴任したのは1977年です。京大理学部出身で専攻が原子核物理であるということで、本学では変わり種だったと思います。ポスドク生活3年を経たとはいえ、まだ31歳の若さでした。都留大教員としての34年、思い出深いことは多々ありますが、ここでは本学におけるパソコン導入との関わりを述べておきます。

パソコンの本格的登場の発端は1979年の8ビットパソコンPC8000の発売でしょう。大型電子計算機による数値計算に親しんでいたので直に関心を持ち、1981年には物理教室の備品費の半分の費やしてMZ80Bを導入しました。これは本学でのパソコン導入の最初でした。フロッピーディスクユニットはおろかプリンターもなし。BASIC言語でプログラ

ムを入力して動かす、保存はカセットテープ。でも学生は目を輝かせて動かしていました。

1980年代の半ばには実用的なフロッピーユニット一体型の16ビットパソコンが登場。私もワードスターという英文ワープロを論文作成に使い始めました。これまたぶん本学で最初。その後、カナ漢字変換という画期的な機能を有する日本語ワープロソフトが登場、パソコン普及の起爆剤になりました。実用的なパソコンの普及を踏まえ、何人かの先生と本学における情報教育の導入を働きかけました。その結果、1987年よりスタンドアロン型パソコン20台を音楽棟の一室に設置して情報処理の実習授業が開始されました。それ以降、長期にわたって私も情報実習授業を担当しました。1989年には新しく完成した2号館の4階に専用の情報教室が設置され、パソコンも40台に増設されました。この情報教室に関しては、私は建設委員会のメンバーとして設計段階から関わりました。1994年にはパソコンネットワークシステムが導入され、同時に情報センターが設立されました。初代センター長は久保木図書館長の併任、2代目は私。1995年にはサーバーがインターネットに接続され、1996年には学内基幹LANが敷設されると共に本学のホームページが開設されました。

大学での思い出

都留文科大学退官教員
初等教育学科准教授

吉住典子



37年間もの長期間、大学にお世話になりました。その間、世の中は非常に変化しましたが、私の意識も大きく変化したことに気づかされています。その第一は、都留文科大学についてです。10年前に入試管理委員になって、大学説明会に出席し、さらに高校訪問をするようになったことからです。日本中から集まる受験生は高校の先生の影響が非常に強いこと、しかも高校の先生方の都留文科大学に対する評価が非常に高いことでした。地元の国立大学よりも評価が高い県がいくつもあり、びっくりしました。これは、卒業生のおかげです。小学校から高等学校までの教員になった卒業生が頑張っていて、評判が良いからこそ得られた宝物だと思っています。先輩達に続く質の良い教師を送り出すことが我々教員の役割だと実感しています。

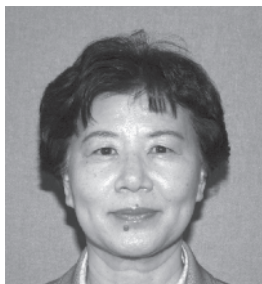
と実感しています。

第二は、地元との関係の深さです。長年、教育実習などで地元の小中学校とは繋がりがありましたが、4年ほど前に「食育つる推進プラン委員会」の委員長として、地元との繋がりが密接になりました。その後「食育つる実行委員会」の委員長として市役所や地元の方と話し合う機会が多くなりました。今年は特に、食育の中の「地産地消」で、地元の産物を使ったレシピ集を作成することになりましたら、さらに都留の土地柄の良さが際立ってきました。都留には、水かけ菜という冬の田圃で育てる野菜があります。富士山の湧き水を利用するからこそ出来る二毛作です。しかも、水かけ菜の粉末を商工会で作製し市販していることも知りました。米粉に水かけ菜を入れた米粉パンも地元のパン屋さんで売られています。その他、青はた大豆、梅、にんにく、などもあります。養豚場も一軒ですが、まだ存続しているので、地域という視点から見た環境としては他には類を見ない大学といえます。何とかこの都留の特産を考えたお土産を作ることができないかと考えて、「手作り豆腐キット」を作製することにしました。原料は、青はた大豆、水かけ菜、を使います。退職はしますが、今後も大学や都留市の地元のお役に立ちたいと考えています。

楽しかった 都留文大生との学び

都留文科大学退官教員
国文学科教授

加藤静子



前学長で東京教育大学の先輩の久保木哲夫先生が、40年ほど前に教え子さんを連れて来られたのが文大卒業生にお会いした最初でした。魅力的な研究をなさる先生に魅力的な卒業生という好印象が、私をこうして国文学科に招きよせてくれました。

退職する時を迎え、文大生に向うために随分と欲張りながら学び研究を続けて来たと思ふに満ちています。掴んだ何がしのものを学生さんに伝えますと、表情に出して喜んできちんと定着してくれる、そのような教師冥利につきる大学は、数は限られましょう。四年間の成長を見、自信に満ちて最高のいい顔になった卒業生を見送れることも最高の幸せでした。

大学の使命として、学生たちに生きる場を与えられているか、彼らに生きる指針を与えられるかがありますが、現場の一教員として何が出来るのか苦悩もありました。私の専門とするのは平安時代の貴族文学、千年の時を隔て現代とは隔絶した世界です。普遍的なるもの時々の流行を見つめること、表現すること読解の楽しさを知ること、生身の生きた痕跡を史的に掘り起こすこと、実学の学問分野とほど遠い対象です。でも人は何か抽象的なもの、現実ならざるものに支えられて生きていく、意識化できるのは少し遅れても卒業生の心の中に腰をおろしていると知りほっとしたのは、折々の近況報告でした。

ところで、国文学科には「国文学会」と称す、講演会、雑誌・会報の発行、受贈雑誌の整理と展示等、学科をサポートする学会組織があります。また学生たちが自主的に集まる研究会があります。私も14年間王朝文学研究会で共に過ごしました。これらには後援会の補助を頂き、学生の励みとなっています。

心残りが学生への就職援助。本学は教員志望者に対してはまあまあですが、企業志望者に関しては手薄に感じられます。大学の命運も左右すること、同窓会からの発信とお力添えをお願いいたします。

Memories of Tsuru University

都留文科大学退官教員
英文学科教授

Eloise Hamatani



These six years at Tsuru Bunka Daigaku have slipped by so fast; I am sorry they are almost over. There are two aspects to my experience at Tsuru that most resonate. The first is the environment. Not only the clean air and nature, but the pleasantness of all the people I have worked with in the university and met in the

community. Even when I've made a mistake or forgotten something, I have always been treated with understanding and patience. My colleagues in the English department have been extremely kind and helpful. For these six years I have felt like I have been a part of something larger than myself; I have been part of a group that supports its members, and even more importantly, supports its students. The second, and most memorable aspect to my time at Tsuru are the students themselves. This university is blessed with students who are healthy in body and mind, enthusiastic to learn, and are simply great human beings. Japan is at a crossroads, and the future could be very dim, but when I think of the students at Tsuru, I have hope for the future of Japan and for the world.

活躍する同窓生

手にしたカード

山梨県教育委員会教育長

松 土 清



私の執務室のファイルの山の中に、秘密のファイルがひとつあります。ラベル名は「都留文科大」。中を開くと、「教員志望者に”学習カルテ”—記録分析し弱点克服」5/1 山日、「母国語教育に力—加藤新学長が抱負」7/1 山日、「桂高と連携促進—全国のモデルケースに」10/27 読売、「児童虐待を防ぐには—都留文科大生が話し合った」11/24 山日、「合唱団今年も金賞—魅力発揮できた」12/2 山日、といった母校に纏わる新聞のスクラップがあり、続いて大学報、同窓会報などが雑多に綴られています。身の回りに溢れる文字の中から無意識に「都留」、「文科、」という文字を見つけてしまう、そして今後使うあてもないのについついストックしてしまう、卒業して幾年月を隔ててもなお、心の一部が「残籍」している自分に苦笑してしまいます。

さて、大学本館の玄関ホールの2階に張り出したような図書室がありますが、私にとってそこがその後の人生を大きく変えるきっかけの場所となりました。キング牧師というと、1964年にノーベル平和賞を受賞し、68年には暗殺されましたが、今では彼の誕生日1月15日は国民の祝日になっているアメリカの公民権運動の指導者です。大学2年の時、図書室で本を読んでいて、キング牧師が全米で行進をし大成功したこと、しかし南部諸州では保守勢力に阻まれて苦労したことを知りました。「そうだジョージア、行こう」、どうしても行きたい、人種差別を自分の身をもって知りたいと思う気持ちを制することができませんでした。休学届けを出し、以後はペイのよいアルバイトをし続けました。当時は変動相場制ではなかったので1ドルは360円と辞書にも刷ってある時代でした。

当時のアメリカはベトナム戦争の真っ最中、その年は、ニクソン・マクガバーン両候補の大統領選が白熱していました。街頭でマクガバーン候補のバッジ配りをして食費を稼いだりもしましたが、ある日ニクソン陣営の運動員達に詰め寄られ、路地を全力

で走って逃げたこともありました。結局2ヶ月かけてジョージア州に辿り着きました。西海岸から東海岸に移っただけで町で見かける日本人は半減したのですが、南部の州都アトランタでは殆ど日本人の姿は見なくなりました。目的地のアルバニーは、そこからさらに3百マイル南ですから、見渡す限り日本人は私ひとりとなってしまいました。その先は結構凄まじいものがあったわけですが、今ふり返るとすべて良い思い出であり、今の自分の心のコアを形成しているように思います。

1972年と73年、本当に様々なピンチに遭遇しましたが、その都度、谷村のキャンパスで先生方や先輩諸氏そして同級生達に培ってもらった「生きる力」を駆使して、何とか脱出する方法を見つけてきました。そんな一連の経験を通して、「逆風で舞い上がる風のようにマイナスのエネルギーをプラスのエネルギーに変えることが大切なこと」そして「目前で閉ざされたドアばかり嘆いていると背後に新たなドアが開いているのを見逃すこと」などを学習しました。それらはその後の人生に大いに役立ったと思っています。

その後、大学に復学し、笹子の山、御坂の山、道志の山に囲まれた小さな空の下に再び自分の身を置いた時の気持ちは言葉には表せません。あえていうなら、充電器に戻った端末のような安堵感でしょうか。それから卒業までの1年間に都留文大DNAによる軌道修正力が働き、高校の英語教師として社会人の一歩を始めることとなりました。

27年間、高校で英語を教え、その後、県教育委員会で4年間教育行政に携わり、市川高校及び甲府西高校に校長として赴任しました。いずれの学校も感化する力に溢れ、原石のような生徒を集めて三年間かけて磨き上げるという活動の中で、生徒達から日々数多くの感動をいただきながら、大いに楽しく過ごしました。

人の運命はまるでトランプのカード1枚をひくように決められていく、人生を振り返ってそう実感する大人は少ないと思います。大学を選ぶとき、職業を選ぶとき、考えてみると今までだけでもずいぶんたくさんのカードをひいてきたものだと思います。ひとつだけ言えることは、人生は片道切符の旅ですから、後になってこのカードではなくあのカードだったらなどと考えることには何の意味もないということです。それよりも、いつでも自分が手にしたカードは正しいカード、ひくべくしてひいたカードだと信じて、それを思い切り有効に使って人生を切り拓いていくことが肝要だと痛感しています。

都留文科大というカードを手にした自分の強運に、今あらためて感謝しています。

活躍する同窓生

花のかけを慕いて

京都府相楽東部広域連合
教育委員会教育長

西本 吉生



花のかけ 集える友は
青空に みなぎる力 (春)

「君が憂いに我は泣き、我が喜びに君は舞う。」そんな無二の心友がいて、クラブに傾注し、試験となればそれなりに勉強もした。学食 80 円、5 円プラスで味噌汁が大盛りに。銭湯 35 円、5 円を足せばシャンプー付き。周りは皆貧しい学生で、金はなかったが、前向きな姿勢とみなぎる力があつた。

“我が春”の4年間をとことん謳歌し、晴れて卒業。されど、自分にとって第二の故郷となった谷村をなんとも去り難く、悪友と共にぎりぎりまで下宿に居残った。惜別の念募る中、ようやく故郷の京都に向かったのは、昭和46年3月31日の昼頃であつただろうか。赴任校直行も到着は夜7時。荷物は当然未着で、住居も未定。よって、その夜から用務員室で寝泊まりする教職生活のスタートとなった。

今、思えば、無謀極まるものである。自分にとって、それだけ、都留文科大学がよかったのか。都留文科大学でよかったのか...

緑こき 山のかなた
富士の嶺 紫匂う (夏)

主に小学校高学年の担任として、「常に弱い者の味方であれ！」をモットーに、子どもたちとかかわってきた。彼らは様々な弱さを見せながら、学校生活を送っている。学力や体力に課題のある子、心身に障がいのある子、経済的に恵まれない家庭の子等々。そんな子どもたちの力になれる教師を目指した。

「子どもとともに歩め！」も信条の一つ。子どもといっしょによく遊びよく学びんだ。彼らからたくさんの教えを受け、その学びを自分なりに味付けして、彼らに返していったものだ。歩むだけでは物足りず、高校生となった教え子たちを引き連れて、紫匂う富士山に登ったこともあつたっけ...

「教師は授業で勝負しろ！」も大事にしてきた。学級経営も、生徒指導も大切である。でも、やっぱりいちばんは、日々の授業。何よりも、授業で勝負のできる教師を目指して、教材はすべて手作りである。ガリ版、ボールペン原紙時代は、毎年作り直しだったよなあ。子どもの反応を予想しながら教材作りに勤しむ『とき』は、楽しいかぎりだった。

若葉から青葉へ、さらには濃き緑へ。教師としての成長過程に、確かに都留大での学びが生きていた。

紅葉照る 桂川岸

わきいずる 愛の泉 (秋)

夏が過ぎると、成熟から終章に向かう秋。

校長としてのスタンスは、『やって見せ言っただけでさせてみせ、ほめてやらねば人は動かじ』であり、山本五十六を手本としたところである。結果、「やって見せ」はしっかりできたようだ。授業しかり、校内研修しかり、掃除しかり。弱かったのは、ほめることだった。愛は泉とならず、悔いが残る。

四苦八苦しながら、何とか携わってきた校長職。“晩秋”になって初めてそのやりがいを実感した。校長のリーダーシップのもとに、全教職員が同じベクトルでかつ一体となって課題解決に当たり、学校の変容を見ることができたからである。

理想の校長像はあつた。我が校の職員から「うちの校長はすごいんや。」と自慢される校長、他校の職員からは「あの校長のもとで働きたいなあ。」と望まれる校長。果たして自分はどうかであつたか...

平成21年3月31日午後10時、完全燃焼して38年間の教職生活を終える。退職を聞きつけた教え子たちが早速に動き、学年を超えた『門下生』が一堂に会して祝賀会を開いてくれた。冥利に尽きる。

城山の 雪の下より

新たなる 歴史をおこす (冬)

「いよいよ趣味の露天風呂巡りを！」という計画の実行は当分延期となった。夢破れて山河あり？

21年4月、行政の効率化を目指し、事務の一体化を進めるために当地方の3町村が「広域連合」を設立。その目玉として、教育委員会が統合され、教育長に就任せよとのことである。想定外の要請にかなり悩んだが、これまでお世話になった地域に少しでも貢献すべきであろうと覚悟をした。これぞ、まさしく“都留の恩返し”、真面目にそう思った。

やると決めた以上、即全力投球である。管内の5小・中学校は過疎化による児童生徒数の激減が大きな課題となっている。連合のメリットや地域の特性を生かし、『相楽東部ならでは』の教育を推進すること、我が故郷を愛し、我がふるさとを誇りに思う児童生徒の育成を最重点として取り組んでいる。

外に目を向けても、学校教育の現況は厳しい。新たな社会問題が起こると、先ずは学校の責任が問われる。普段はよき支援者である家庭や社会も、時に過剰な、理不尽な要求をして教師を悩ませたりもする...。せめて、教育への情熱と優れた指導力を持つ教師が学校を去ることのないよう、弱者を守るべく最大限の努力をしたいものである。

さてさて、現役の学生諸君。こんな時代だからこそ、学校現場は、厳寒城山の雪の下から這い上がってくる逞しい都留大人を待っているのである。

「冬来りなば春遠からじ」と信じて粉骨砕身！

北方領土～ビザなし交流の今に学ぶ～

北海道支部長 横山 勲

本年度の桂友会総会は、例年より1週間早い7月31日に札幌市内のホテルで行われました。本会の事業として大きな成長をみせ、今年で5回目を迎えるミニ講演会は、苫小牧市で教壇に立っている金子歩先生（平成16年度国文学科卒）をお願いをしました。先生は、この3月まで在職されていた道東において、国後島へビザなし交流事業に参加された際の貴重な経験を「北方領土の現状と課題」と題して話されました。講演では、北方領土が400年前すでに日本人によって発見されていた歴史的事実に始まり、国後島周辺の豊富な漁業資源や職業訓練を重視した学校教育、さらには島民の生活の現状などが、現地の写真とともに若々しい語り口で述べられました。その後の質疑も活発に行われ、講演は充実した内容で好評のうちに終える事ができました。

続いて懇親会の席上では、初代支部長の日下先輩から、「花のかげ」の作詞者石村先生がご病気の中、教育に心血を注いでくださったことや当時の先生方の奮闘ぶりが、その後の大学の礎が作られたことを熱い思いの中で話さ

れました。また、本学を卒業した小学校時代の担任の先生の影響で、自分もその後都留に学び現在は小学校長をされている方やアフリカの日本人学校で教えてきた方たちの話が続き、本学の歴史の重さの一端を知るとともに、今年も豊かで貴重な交流のときを持つことができました。

最後に明年の支部設立40周年の盛会を祈念しつつ、「花のかげ」を4番まで大合唱するうちに会の幕が閉じられました。

◎平成22年度役員

顧問	日下 功	会計監査	西多 弘
〃	熊谷 勲	〃	西山 肇
〃	当銀 誠寛	事務局長	山本 洋嗣
支部長	横山 勲	事務次長	照山 秀一
副支部長	加藤 佳栄	〃	神野 昌代
〃	杉森 繁樹	事務局員	北田 則章
〃	竹村 雅史	〃	桜田 琢歩
〃	井口 郁将	〃	金子 歩
会計	大花 学		
本部理事	横山 勲	本部理事	当銀 誠博

10回記念総会は都留で開こう

山形県支部長 小川 秀人

山形県支部『べにばな会』は、平成5年の発足以来、2年に1回県内4地区持ち回りの形で総会を開催しており、平成21年11月14日に山形市を会場として第9回の総会を開くことができました。16人の参加を得て、総会とそれに引き続いての懇親会で旧交を温めましたが、平成23年11月に開催予定の第10回総会は、支部設立20周年という節目となるため、われわれの第二の故郷とも言える都留を訪問し、大学やその周辺を巡りながら開きたいものだと考えています。一泊二日のバスツアーに、果たして何人参加できるやら不安もありますが、「みんなで都留に出かけよう」という声は、総会のたびにみんなの口に上がっており、バス代を出せるくらいの会費も貯まりました。あとは、「忙しい」という言葉を封印し、11月12日(土)・13日(日)のスケジュールを空けて、山形発都留行きのバスに乗り込むだけです。自分が住んでいたアパートはまだあるのだろうか、毎日通った食堂は、通学した畔道は一。待っているよ都留。

〈平成22・23年度役員〉

○顧問	武田 茂行 (昭54 初等教育)
○会長	小川 秀人 (昭55 国 文)
○副会長	鈴木 雄二 (昭55 国 文)
同	奥山 広幸 (昭57 初等教育)
○会計(監事)	白林 和夫 (昭60 初等教育)
○理事(幹事)	
・村山地区	小川 秀人 (昭55 国 文)
・同	鈴木 雄二 (昭55 国 文)
・同	和泉 一彦 (昭58 国 文)
・同	白林 和夫 (昭60 初等教育)
・同	渡邊 隆 (平 4 初等教育)
・最上地区	武田 茂行 (昭54 初等教育)
・同	佐藤 成美 (昭54 国 文)
・置賜地区	神尾 正俊 (昭55 国 文)
・同	佐藤 英樹 (昭60 初等教育)
・同	中條 秀基 (平20 初等教育)
・庄内地区	奥山 広幸 (昭57 初等教育)
・同	原田 清一 (昭60 初等教育)
・同	若月 力 (平 4 初等教育)

サカツキニナミナミツイデ

宮城県支部長 千葉 龍正

毎年2月の第一土曜日に、仙台市内のこのホテルで、固定して支部総会を開くようになってから同窓会の輪もずいぶん広がりをみせてきました。平成22年は、同窓生55名が一堂に会し、本部から小林同窓会長をお迎えしました。にぎやかで、和気あいあいで、たくさんの笑みがこぼれました。

支部の活動はこの総会のほかにも一層の親睦を図る有志の集まりも出てきています。

又、私達現職ができることとして次年度の教



職員の採用に向けた勉強会・研修会もこれまでに引き続き、実施しました。

本支部の会員も県内各地、各界で活躍されています。これまでの学校関係の紐帯に加えて、今以上にネットワークを広げていきたいと考えています。

この不透明な時代、特に同窓生同士のもろもろの交換は親睦にとどまらず、何ごとにも代えられないものがあります。総会は、有朋遠方来。不変楽乎。次回の再会を期しました。

○平成23年度役員

名誉会長	鎌田 光彦・小野 俊次・鎌田 清
会長	千葉 龍正
副会長	白幡 守男・相沢 光信・森田 宏彦・布施 勝久・高橋 克巳・菅野 俊雄 (事務局担当)
事務局	繁田 由美・坂本 忠厚・松浦 和宏・一条 良介・及川 恵子・清水 進・佐藤 圭二
会計	横山 英実・小野寺直美
参与	及川 勝友・半澤登美子・横山 貞夫・目黒つねみ・松田美智子・斎藤 章夫

茨城県支部活動報告

茨城県支部長 宮内 健治

全国同窓生の皆様方には、御健勝にて御活躍のことと存じ上げます。

茨城県支部の流れと現状を御報告します。

茨城県支部は、長弘道元支部長が支部結成に尽力され、支部運営に御尽力されました。その後大川英世前支部長が継承し、活性化され、現在は小生が支部長を担当させていただいております。

〔活動経過〕

〔長弘道支部長〕

昭和 50 年代 支部総会（土浦市）今野達先生講演

支部総会開催、支部会員名簿発行（昭和 62 年）

〔大川英世支部長〕

平成 7 年 支部総会（つくば市）

平成 9 年 支部総会（土浦市）林信義先生講演

平成 12 年 支部総会（潮来市）依藤道夫先生講演

平成 15 年 支部総会（土浦市）

〔現支部長〕

平成 19 年 支部総会（土浦市）

平成 21 年 支部総会（土浦市）大平英子先生講演

活動の現状は、支部総会を隔年で実施し、その間支部役員会を適宜実施しております。新規教員採用の状況は依然厳しく何らかのサポートができればと考えております。例年同窓会理事会時に実施される教員志望学生懇話会で助言し、その後の面接指導の講師も支部から大学に推薦し協力しております。今後も教員志望の学生には可能な限り支援ができればと考えています。

〔茨城支部役員〕

○顧問 大川 英世（昭 45 英文）

○支部長 宮内 健治（昭 52 国文）

○副支部長 井坂 雄爾（昭 61 初教）

○理事 武田 真一（昭 57 英文）

○理事 新井田由美（昭 62 英文）

○理事 石川 順子（平成元国文）

○理事 関野 昌彦（平 6 英文）

○理事 赤荻佐知子（平 8 国文）

平成 23 年度には支部総会を開催予定です。

感無量の支部結成から 1 年半

群馬県支部事務局長 島田実恵子

県支部を結成することができましたが、活動内容につきましては、まだまだ暗中模索です。まずは、会員相互の親睦を深めることが先決ということで、平成 22 年 8 月 28 日（土）ホテルメトロポリタン高崎にて第 2 回群馬県支部の総会を開催しました。夏の終わりであり、家族旅行とか中学校の部活練習試合とか、みなそれぞれお忙しい時期ではありましたが、20 名のみなさんにご出席いただくことができました。昨年同様、懐かしい学生歌「花のかげ」を合唱したり、都留での共通の思い出を語り合ったりして、楽しいひとときを過ごしました。そして、次回からは毎年 8 月の最後の土曜日（17 時～19 時）ホテルメトロポリタン高崎で、県支部の総会を開催することに決めました。この会報をご覧になった群馬県支部のみなさん！6 月の中にご案内を発送しますが、今から予定に入れておいて下さい。そして一人でも多くの同窓生にご出席いただき、県支部を発展させていきたいと役員一同、心から願っております。

第 2 回群馬県支部総会



支部の活性化を目指して

千葉県支部長 林 俊之

千葉県支部では、支部活動の活性化の基底を学生諸氏の教員採用支援に据えて取り組んでまいりました。

これらの活動の成果として、この 4 年間で 20 名以上の正規教員採用がなされました。特徴的な活動は、一次選考に合格した学生を対象とした一泊二日の二次選考に向けた宿泊学習会にあります。

今年度の宿泊学習会の概要は下記の通りです。

期日 平成 22 年 8 月 18 日～19 日

場所 千葉県鴨川市立鴨川小学校

（校長：都留文科大学卒業生 佐生正喜氏）

内容 【一日目】

*教員の資質と学習指導（佐生正喜氏）

*模擬授業（元教育事務所長：諸岡研氏）

*二次選考に向けての心構え（林俊之）

*O B と学生との交流会

【二日目】

*体育実技実習（O B：辰馬基倫氏 他）

*企業が求める人材、面接の心得

（オリエンタルランド役員：竹内昭氏）

参加者 学生 9 名、O B 延べ 13 名、他 3 名

千葉県を希望する学生は、県外出身者が多く宿泊学習に参加することにより、千葉県をより身近に感じ、千葉県への愛着を一層深め、何としても千葉県の教員になりたいとの決意を新たにしました。

また、夕食を兼ねた交流会では、O B との歓談を通して生きた学びを実感できたようです。

このように千葉県支部では、教員を目指す学生を対象とした支援活動を重点に取り組んでおりますが教員以外を希望する学生などの情報についても、同窓会事務局やキャリアサポート室との連携を密にしながら支援活動の充実を図っていきたいと考えております。

また、支部総会が 2 年に一度であり、支部同窓会員との交流が少ないので、最低年 1 回は同窓会行事を計画したいと考えております。早速、今年の 8 月にバスツアーを組んで母校訪問をしたいものです。

東京支部の近況

東京都支部長 松本多加志

全国の同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

本支部の活動の主旨は、会員相互の旧交を温め親睦を深めることにありますが、教職にかかわる同窓生が多く(千人を越える)いることから、中堅教員や管理職を対象とした研修会、そして、管理職を志す後輩への指導を行うとともに、東京都の教員を目指す本学の学生への支援にも取り組み、模擬面接会などを実施しています。来年度も10名以上が東京都の教員として採用される見通しです。

現職教員に対する研修は、平成元年頃より、支部組織の一環である『桂川(けいせん)会』が取り組んでいます。これは名勝桂川に因んで名付けられました。

当時は、各区市に本校出身の校長・教頭が百名を越え、また、教育委員会の指導室課長も数名おり、“東京の教育の一翼を”との思いが強くあったからです。しかし、5・6年前頃から現職の同窓生が減り始め、管理職を志向する人も少なく、活動が低調になってきました。一方、現在、

東京都では30年前のように教員採用が拡大し始め、『桂川会』としては、教員採用に向けた取り組みを重視した活動を続けています。今後とも、都留文科大学の同窓生同士及び学生との絆を強めていきたいものです。

〈平成22年度 東京都支部役員一覧〉

○支部長	松本多加志	(S44:初)
○副支部長	黒田賀代	(S32:初)
	橋本秀夫	(S44:初)
	長沢和子	(S43:国)
○庶務	奈良覚	(S45:初)
	榛原紀子	(S58:初)
	田村聡	(S61:初)
	西村学徳	(H12:初)
○会計	矢野優	(S47:初)
	高野明彦	(S49:英)
○会計監査	松田篤郎	(S42:初)
	泉宣宏	(S47:国)

大量退職・大量採用期を迎えて

神奈川県支部事務局長 松下登志男

団塊の世代が退職の時期を迎え、学校現場でも新旧入れ替えが急速に進んでいます。1970年代を中心に人口増加が急激だった神奈川県ではここ数年、大量の定年退職者があり、そのバトンを受け継ぐ形で毎年約2,500人～3,000人程度の新採用が続いています。ベテランが非常に多かった学校が一気に若さあふれる学校に変化しています。この動向はこれから先まだ数年は続きます。

私の住む相模原市でもその傾向は顕著で、毎年都留の卒業生を新規採用教員として迎えています。また、正規採用を目指して勉強しながら臨任や非常勤として学校に勤務している卒業生も少なくありません。

相模原支部では毎年、都留の同窓会「飛翔の会」を開催し、退職される先輩方の功を讃え労をねぎらうとともに、新しい仲間を歓迎する会を開いています。今年は11月26日に市内の中華料理店で開催しました。今回は副学長の高田先生にもご臨席いただき、ゼミなどでお世話になった教え子たちと再会していただくことができました。

先生からは大学が独立法人化されたことや、新しい図書館のこと、都留の様子、最近の学生気質などたくさんの情報をいただきました。お互いの学校の状況を交換したり、懐かしい都留での思い出を語り合ったり、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。最後に学生歌「花のかけ」を大合唱し、学校でのがんばりを誓い合って散会となりました。

県内には2,000人を超える同窓生がいるためになかなか一堂に会する機会ができませんが、各地域でそれぞれに交流を図り、後輩のために尽くす努力がなされています。

これから実現したい課題として、一人でも多くの都留大卒業生が教職に就くことができるよう、最近採用された若い先生方の経験談などを在学生に話してもらうような機会を是非設けたいと考えています。関係各位のご協力をよろしくお願いいたします。

縦糸と横糸

山梨県支部長 倉田由和

平成21年8月より、下記役員体制での新年度が出発した。

【山梨県同窓会役員】21～22年度

会 長 倉田由和 (東山梨)
副 会 長 若林四郎 (南巨摩)
々 田中克己 (南都留)
事 務 局 長 吉田一郎 (東山梨)
事務局次長 原 喜雄 (東山梨)
々 望月正行 (南巨摩)

【活動の経過】

平成21年 8月 2日 山梨県同窓会定期総会
12月28日 同窓会報28号提出
平成22年 2月 5日 山梨県同窓会役員会
3月12日 歴代会長経験者の会
4月24日 在学生との懇話会
5月 8日 模擬面接体験会
6月10日 山梨県同窓会役員会
5～6月 同窓生名簿の整理と確立

6～7月 参議院選支援活動
12月28日 同窓会報29号提出

【活動の様子から】

1, 縦の集まり (東山梨支部の様子)

6月29日(火)山梨県同窓会東山梨支部で恒例の納涼会が開かれた。飲むほどに食べるほどに会は盛り上がり、自然に話題は「興石 東先生」の選挙に。情勢や協力・支援の意気込みが語られ、50人を超える参加者は大いに盛り上がり、お互いの健闘を誓い合って散会した。

2, 横の集まり (33年卒 同級会の様子)

夏の参議院選挙に向け東奔西走中の「興石 東先生」を激励しようと、県内外から40名以上の同級生が石和に集結した。「テレビで強面の興石を見て頼もしく感じている」「同級生の誇りだ」「興石は学生の時代から硬派だった」などなど。そして話題の締めくくりは、学舎での学生生活へ。懐かしさと同期生の絆を一層深めた一夜だった。3, 同級会は、「縦(同感)」と「横(同期)」の絆を深める機会をより多くつくることにより、重みと厚さを増すのだといえる。

岐阜県支部の設立なる！

岐阜県支部長 山本 吉朗

本年、2月1日付で同窓会本部から支部設立についての依頼がありました。依頼された中で最年長である自分が音頭をとらねばとの思いで依頼された5人に設立発起人を呼びかけました。その内、現役の一人をのぞいて4人で設立発起人会を立ち上げ設立総会に向けての準備を行いました。

同窓会事務局の全面的な支援とお世話で支部設立に関わる諸準備ができ、8月22日に加藤学長様、小林同窓会長様においでいただき設立総会を行いました。設立総会を行うに当たって岐阜県出身の全同窓生四百九十余名に案内を出しましたが転居先不明や返事が戻ってこなかったりで同総会への出欠の返事が来たのが176名でした。設立総会の当日には20数名の参加者が集い加藤学長様から大学の現状や発展ぶりが、同窓会長の小林様からは、同窓会の動きや活動の様子についてお話をいただきました。

設立総会後の懇親会では、大学時代の思い出話にすぐにうち解け和やかに楽しく話が盛り上がりしました。次の総会にはさらに参加者を増やして盛大な会を開催できるようにしたいと思っています。



○平成22、23年度岐阜県支部役員

- ・支部長 山本吉朗（'66卒）
- ・副支部長 細野矩義（'67卒）・清水 栄（'68卒）
- ・事務局長 佐藤真治（'72卒）
- ・庶務 梅田典利（'91卒）・藤埴 功（'72卒）
- 古川一男（'81卒）・加藤勝祥（'78卒）
- ・監事 河合 均（'84卒）・山岡一信（'84卒）

石川支部の活動報告と雑感

石川県支部長 西田 良治

石川県支部は、平成14年に発足、既に卒業生は500名を超え、現在会員登録は、約200名である。第1回の総会には80余名が参加し、親睦を深めた。これまでの主な活動をあげると、

- 平成17年 7月 総会（金沢茶屋街を訪ねて）
- 19年 7月 総会と金沢文学散歩
- 20年 6月 拡大役員会
- 〃 11月 俳聖芭蕉が歩いた加賀路探索
- 21年 7月 教員採用試験模擬面接会開催
- 〃 11月 総会（福田副学長講演）
- 22年 4月 同窓会理事会に谷内副会長出席
- 〃 5月 大学での模擬面接会に西田出席
- 〃 11月 就職指導ガイダンスに矢田前会長出席

今年も春に予定されている理事会や模擬面接会などに会員が出席する予定で人選を進めています。

私事ですが、支部の会長となって久しぶりに都留を訪れました。前は、ゼミの恩師中野猛先生の最終講義に出

席、当時の久保木哲夫学長も直接教をいただいたお一人です。あれから10何年が過ぎ、大学前に駅も出来、都留は大きく変貌しました。校舎も幾つも建ち並び、一体どこへ行けばよいのか迷うほどで、昔の面影はありません。早いもので卒業から36年、当時待望の体育館がようやく完成し、そこで卒業式が挙行されたことを懐かしく思い出します。（それまでは儀式は市民会館を借りて行われていました。）母校の発展を目の当たりにし、嬉しいと同時に、さらなる発展を願いました。

また、同窓会報では、日本陸上競技選手権大会での女子リレーチームの銅メダル獲得や、合唱団の全日本合唱コンクールでの金賞受賞など、後輩たちの活躍も知ることができました。

今後も卒業生の一人として、母校や後輩のために微力ながら尽くしたいと思いを新たにしています。

〈22年度支部役員〉

- | | |
|-------|-------------|
| 会 長 | 西田 良治（昭50国） |
| 副 会 長 | 下出 貴（昭51初） |
| 〃 | 谷内 誠一（昭50英） |
| 事務局長 | 徳野 正一（昭46初） |
| 会 計 | 光岡 和道（昭46国） |

高田副学長先生をお迎えしての福井県支部総会

福井県支部長 村上 則夫

念願の「若狭」の地での開催となりました本年度の県支部総会は、平成22年11月6日に都留文科大学より副学長の高田理孝先生をお迎えし、開催しました。県内各地より多くの友が集まり、大いに盛り上がりしました。

高田先生からは、「都留文科大学の現状と展望」という演題で特別講話をいただきました。写真に映し出される現在の大学の様子を見て、懐かしい在学中の頃の様子を思い浮かべながら聞き入っていました。最近の大学を取り巻く厳しい状況や学生の動向等について、大変貴重で有意義なお話を興味深く聞くことができ、あっという間の時間でした。

また、高田先生を囲みながらの懇親会では、高級魚「くえ」「ふぐ」料理を堪能しました。4名の若い新会員を迎え、それぞれの世代に応じて近況や思い出話に会話をしむと共に、情報交換の意義を肌で感じながら、共に楽しい充実した時間を共有できました。

これまで総会開催地を全県的に広げていく方向で取り組んできました。県内各地の文化・歴史等を身近に感じ、ふるさとを想う気持ちが強くなるように、これからも会員の皆さんと活動していきたいと思っています。

また、新会員の加入増をめざし、今後も会員相互の親睦と学生への支援を継続しながら、活発な支部となっていくように心掛け、会員相互の繋がりを太くしていきたいと思っています。



愛知県支部総会！ 大盛会！

愛知県富岳会会長 神谷 彰彦

10月24日、5年に1度の県支部総会を、来賓に「加藤祐三学長」及び「興石東参議院議員会長」大先輩という、お二人の金看板をお迎えして盛大に開催いたしました。学長には本大学の現状と展望についてお話しいただきました。興石東議員には、「どの子にも出番と居場所のある教育の原点」についてお考えを語っていただきました。この総会を成功させるために、県下8エリアで何度も連絡を取り合って準備を進めましたので、100名近い多くの現役やOBの同窓生が一堂に会し、旧交を温めることができました。会場のルブラ王山の写真室で記念写真を撮りましたが、すし詰め状態でした。

全員集合写真と、この頃の都留文大&近郊の様子画像を参加記念に持ち帰っていただきました。「懐かしい人と会えて青春時代に戻ったようだった」「学校で学級写真を撮って以来の集合写真だ」「学生歌／花のかげを久しぶりに通して歌って当時が甦った」「武田節大合唱が実に良かった」等々、それぞれの都留文科大学を楽しんでいただけ

たようでした。12月に行われた地域幹事会でも「総会大成功！次回の準備を進めよう」と話し合われました。

県全体としては、次年度は役員の大きな交代はありません。次回の総会も多くの役員が引き継げるよう考えて構成しました。各エリアでも現職の研修や新人の声掛けに工夫を懲らしつつ、支え合って成長できるようざっくばらんに語り合った地域幹事会「♪こだまはかえす。お京都留大学♪」です。



支部結成5年目を迎えて

三重県支部長 中矢 泰之

4年間で、支部の基盤づくりも終えたため、女性も加え役員の交代をしました。また、南北に長い三重県の地勢を考え、15のブロックに分割し、それぞれに「ブロック世話人」の委嘱もしました。

8月8日に「第5回三重県支部総会」を津市の「三重県教育文化会館」で開催し、21・22年度支部活動報告及び予算の審議を行いました。講演会は同窓生で、三重大学人文学部准教授

の石阪督規先生（平成6年社会学科卒業・東京都出身）をお願いをし、大変興味深く聞かせていただきました。



その後の懇親会は、時間も忘れ和気藹藹と過ごしました。事務局長が都留大を訪問し、撮ってきた写真を会場の大スクリーンに流し、懐かしい話に花を咲かせ、一段と盛り上がった会になりました。

今年度から支部の情報交換の一助にと「三重県支部通信」の発行をしました。平成23年度の総会は6月4日津市の「三重県教育文化会館」で開催する予定です。

今後は会員同士の絆を深める機会を多く持つことや現在の在校生に対しての支援のあり方などが大切と考えています。

確固とした組織になるよう一步一步確実な活動を進めていきたいと考えています。

◎三重県支部役員

顧問	山本 征也	河村 武彦	青木 正司
	千種 成男		
会長	中矢 泰之		
副会長	中島 弘文	米奥久美子	
監事	川端 泰	近藤 澄子	
事務局長	海住 壽		
庶務	松本 正美	田畑 繁行	松岡みつ子

忘却からの目覚め

兵庫県支部理事 中村 市衛

「山梨からブドウですよ。」今年も都留からのゆうパックである。大学を卒業してからもう40年を過ぎた。しかし、その間、かつてのバイト先である某薬局の主人からのブドウの贈り物は途絶えたことがない。ブドウを噛みしめながら、忘れかけていた都留で過ごした4年間の記憶が忘れること無く、また蘇るのである。

6月19日、今年の同窓会県支部総会は、県北部の但馬地区で開催した。

一連の総会議事も終了し、二部は研修会で、この地に関わりの深い「コウノトリ」の現状について、人工飼育の当初から携った、コウノトリ文化館の松島館長の講話であった。

一度は農薬等、人の手によって自然界から絶滅したコウノトリを、40年がかりで自然界に野性復帰させた取り組みが骨子であった。

「コウノトリを考えることは自然環境を考えることである。」「コウノトリも住める豊かな環境をつくる。」氏は

このように締めくくられた。

最後は懇親会である。参加者のなかに5人も同級生がおり、入学1年次の秋に同盟休校があったこと、谷村の旧校舎の二階の窓から富士山を望むことが出来たこと、旧校舎と現在の新校舎との業間移動が大変だったこと、学生食堂の定食が70円であったこと、下宿裏手の田圃に水を張り、スケートを楽しんだこと、大学祭に兵庫県人会として赤穂浪士の市内パレードをしたこと等。思い出は止めどもなく続いた。

「同窓会」素晴らしい組織である。



人の絆を

広島県支部会長 小谷 桂司

「教育は人なり」と言われます。「教育」に携わる職を得てから教職を全うし、退職をして今なお「教育」にかかわる仕事を現職として再度チャレンジしている自分自身の今を考えて見ると、ここで言う「人」となるために「がむしゃらに自分に鞭打っていた時期」「人並みに教育者として認知され始めた時期」など、いろいろと振り返ってみると常に「環境が人を育てる」と言う「環境という人の存在」をなくしては今がないという「人の絆」に感謝ばかりです。広島県支部の会員は450名を超えた人数



ですが、総会の案内の返信や会への参加状況は決してよい状況ではありません。何とか活性化を願って、ここ近年では役員会及び総会の会場場所を県内の東西南北に場所を考慮して進めています、まだまだ工夫が足りないのかなと苦慮しているのが現状です。更に「人の絆を」高め、深められる県人会の再生になる「ウサギ年」になるよう精進したい。

平成23年度役員

顧問	間 金久 睦彦	松田 昌紀	中西 正一
会長	小谷 桂司		
副会長	表 善彦	目崎 仁志	
事務局	(兼：会計)	二宮 正	
理事	佐島千賀子	田丸 正実	宮本 仁
	山城 義明	猪原 憲三	本宮 達弘
	土橋 義信	三永 政幸	田中 春樹
	池田 桂子	島本 智子	
監査役	三井 昌宏	白石 隆	
幹事	山中 護	田辺 恵子	五葉木輝正
	兼丸 裕子	安藤 正弘	奥窪 尚昭
	末房 朋子	杉山 幸子	松浦 富枝

支部結成から8年目の岡山

岡山県支部長 原田 直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので8年目を迎えました。

当初は、8月第3日曜日に支部総会を開催していましたが、平成17年度(第3回)支部総会からは2月11日(建国記念の日)に岡山市内で開催するようになり、平成22年度もその予定で、ただいま準備を進めているところです。

さて、平成22年度の支部総会の様子を写真でお知らせしたいのですが、原稿締め切り後の開催なので、前年度のものをご覧ください。

そういうわけで、平成21年度の支部総会について報告したいと思います。平成19年度から、岡山市内にある割烹「Ryoutei(りょうてい)」を会場としています。新装になった岡山駅の近く、駅西口ですので、アクセス面でも好都合です。前年度より5名減の12名が集いました。

それでも、8回目ともなると、気心知れた先輩、後輩という感じはより強くなり、お酒が回るにつれ各人、谷村の町に若き心でタイムスリップし、まぶたにあの頃の自分

を思い描きながら、テンションは高まるばかり。本当に、いい会になったものです。

いつしか元文大生たちは、老いを忘れ、教育談義に花を咲かせておりました。

岡山県支部役員

支部長	原田 直樹
副支部長	菱川 徹
理事	岩城 孝志、坂上 信二、 中野 元雄、土師 康生
事務局	岩城 孝志、岩崎 美幸、岡本 智江



「龍馬伝」で沸いた高知より

高知県支部長 清岡 典代

高知県支部8回目の総会が平成22年8月7日(土)に、高知市にて6名の参加で開催されました。

私は、初めての参加でしたが、事務局長の田辺さんを始め、様々な人の心配りがあり、この夏の猛暑も忘れて、楽しい一時を過ごすことができました。

例年どおり、総会では、清岡会長のあいさつや出席者の自己紹介、21年度の事業報告等が承認され、平成22年度事業計画・予算案の報告もありました。

懇親会は、やはり都留大での当時の思い出話で盛り上がりしました。

学生の就職難は、よく取りざたされていますが、本県でも教員採用の道も厳しいという話も出、そんな中で、高知で採用され活躍されている方のコメントも披露されました。

皆さんのお話を聞いていると、都留大で過ごした日々が、それぞれの生きる糧となっていて、高知での各人各様の新しい世界を広げる原動力になっていると感じられました。

会後は、皆で「龍馬の生まれたまち記念館」等の見学

をしました。

「この世に生を得るは事を為すにあり。」と言った龍馬の言葉の如く、今後の総会も期待できそうです。

次回は、平成23年8月の第一土曜日を予定しています。四万十市・中村での開催が計画されているようですから、少しでも多くの方にお越しいただき旧交を温めていただきたいと思います。

都留文科大学と高知県支部の発展を祈りつつ、高知県支部総会の報告といたします。(文責 佐竹真紀)



あゝ、都留大

熊本県支部副会長 高倉 利孝

倉岡会長の代理として、22年度理事会に出席させていただいた。数ヶ月前から、懐かしい都留の風景や当時お世話になった方々の顔が思い出され落ち着かない日々が続いた。

まず、理事会という第一目標の会議が終わると、次は、在学生とのブロック別懇談会が始まった。参加した学生は皆、教員志望で、熱心な態度に、何としても役に立たねばという思いであった。自作の資料をもとに話を進め、最後は「日本一の富士山には登っておくように」としめくくった。

3つ目の務めは、在学生と県人会を開催することであった。体調をくずし出席できなかった学生もいたが、5名の学生と居酒屋「村さ来」で行った。同郷の親しみを感じながら、会話ははずんだ。

今回のもうひとつの喜びは、私の学生時代の懐かしい方々に会えることであった。まず、4年間、住み慣れた「土屋荘」という寮である。家主の親父さんはもう亡くなっておられたが、長男御夫妻が温かく迎えてくださった。

次は、アルバイト先の「志村クリーニング店」である。当時のおかみさん、店員の皆さん、それに息子さん夫婦にお会いでき、楽しいひとときであった。

夜は、よく飲みに行った「住吉」という赤提灯に出かけたが、世代交代で雰囲気が変わり、さびしい思いがした。

いよいよ都留を離れる時が来た。都留駅へ降り立った時はあんなに気がはずんでいたのに、帰りの電車の中のさびしいこと。時折見る富士の姿にジーンときた。提案であるが、理事会に出席出来る人数を2~3人増やしてはどうだろうか。もちろん、増えた人数の旅費は各支部で持つわけである。「行きはよいよい帰りはさびし」にならないように。

○熊本県支部役員

会 長	永田 好文	
副 会 長	山邊 健二	高倉 利孝
会 計	北口 修	
事 務 局	松村 順三	
監 査	長嶺喜代子	藤掛 久美
会誌編集委員	北口 修	田山 智雄

大学生との交流を通して

沖縄県支部事務局長 伊波 聡

平成20年より、私は都留文科大学女子バレーボール部の新潟柿崎合宿に参加している。この合宿は、本学が中心となり、関東学連に所属する多くの大学が参加するもので、かなり多くの参加者がある。その合宿に、私自身の指導技術の向上を目指して参加するようにしている。

合宿の中では、指導者同士の交流はもちろんのこと、後輩である大学生と直接交流することができる。学生達の生の声を聞くことによって、本学がこれまでの歴史の中で培ってきた特色(良さ)といったものをあらためて認識させられた。

私が大学入試に臨む頃、日本はバブル経済の中にあり、誰もが有名大学への進学と、大企業への就職を目指していた。そんな時代であったけれども私は、自分の将来像を「田舎の学校で教師をし、バレーボール部の監督となり、県大会で優勝する」と思い描いていた。当然、教師になることを目指して勉強していた。そんな中、高校の先生より、都留文科大学の話があり、興味がわいてた。高校生の私にとって本学の魅力とは、「教師を目指す学生が日本全国から集まってくる」というものが一番であった。そんなことで、本学を受験することになった。大学生活を通して、常を感じていたことは、先生方や先輩方、都留市民の面倒見の良さである。私が人間らしく成長したのも、この大学生活があったからだと感謝している。このような思い出が、最近、

学生達と関わっていると、鮮明によみがえってくる。私が学生だった頃も、多くの先輩方にお世話になった。この恩を返す番だと今は感じている。

先日、関東リーグの試合があり、男女とも試合を見学させて頂いた。特に男子部は、沖縄出身の学生が多く、沖縄出身の学生がサーブを打つときには「ハイサイおじさん」の応援歌で盛り上がった。以前にはなかった光景である。試合後、4年生より感謝の電話があった。何もしてあげられない私だけれども、本当に嬉しかった。

この、大学生との交流を通して、都留文科大学の良さということについてあらためて考えさせられた。本学の良さは、先生方と学生、卒業生と学生のつながりが深く、しかも、そのつながりが日本全国に広がっているということだ。これほどまでに愛校心を持った学生や卒業生が存在する大学は他にはないのではないだろう。施設面から考えると、都心の大学には劣るかもしれない。山梨の郡内にある田舎の大学だからこそ成し得る人づくりが本学の良さではないだろうか。時代や制度も変わり、市立から、独立行政法人へと変革を遂げたということを聞いた。都留の街も変わり、新しい建物も増えてきている。しかしながら、本学の大きな特徴である、「人づくり」「人とのつながり」「純粋な学生」などといったものは、変わらずに残っていくものだという事を信じ、これからも支援活動を続けていきたい。



平成22年夏合宿にて

平成22年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	534	13	東京都	1,240	25	滋賀県	95	37	香川県	136
2	青森県	216	14	神奈川県	1,239	26	京都府	227	38	愛媛県	240
3	岩手県	441	15	新潟県	559	27	大阪府	484	39	高知県	64
4	宮城県	551	16	富山県	514	28	兵庫県	791	40	福岡県	226
5	秋田県	210	17	石川県	528	29	奈良県	91	41	佐賀県	76
6	山形県	295	18	福井県	447	30	和歌山県	171	42	長崎県	176
7	福島県	684	19	山梨県	3,185	31	鳥取県	148	43	熊本県	180
8	茨城県	369	20	長野県	864	32	島根県	206	44	大分県	96
9	栃木県	398	21	岐阜県	464	33	岡山県	349	45	宮崎県	138
10	群馬県	288	22	静岡県	1,167	34	広島県	461	46	鹿児島県	294
11	埼玉県	532	23	愛知県	1,116	35	山口県	171	47	沖縄県	158
12	千葉県	545	24	三重県	342	36	徳島県	325	48	外国、不明等	6,768

合 計 28,799

支部設立済都道府県

平成22年4月1日現在

体育会

平成22年度体育会
会長 土山健治

春陽の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度、体育会ではスローガンに「環・和・我」の3つの“わ”を掲げ各部の繋がりを大事にしながらお互い高めあえる集団を目指して活動しております。

今年は、関東甲信越大会において準硬式野球部、女

子陸上部、女子ソフトテニス部が優勝という大変優秀な成績を収めました。また多くの部活がリーグ昇格を果たしています。これは現役の選手の力だけではなく、陰で支えて下さっているOB、OGの先輩方のおかげです。

これからも、諸先輩方に良い報告ができるように精進していきたくと思います。重ねてご指導、ご鞭撻のほどよろしく願います。



平成22年度鶴鷹祭にて

文化会

平成22年度文化会
会長 嶋田光成

浅春の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

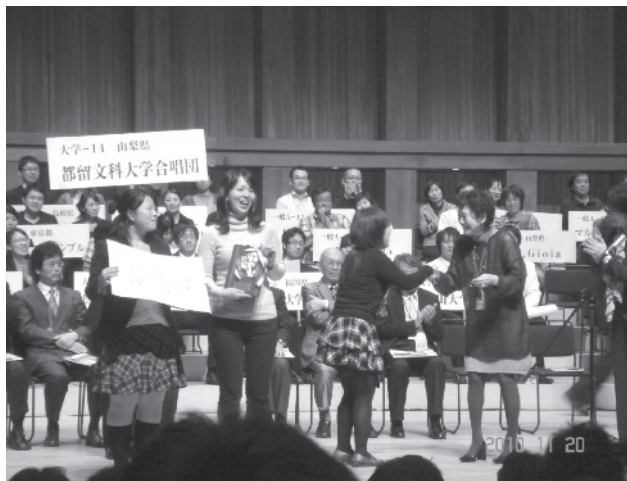
平成22年度におきましては、文化会所属の合唱団が11月20日(土)に兵庫県西宮市の兵庫県立文化センターで行われた「第63回全日本合唱コンクール全国大会」において2年連続の金賞を受賞するなど、各方面にて輝かしい実績を収めて参りました。これも、ひとえに陰で支えて下さいました諸先輩方のお力添

えの賜物と、深くお礼申し上げます。

また、吹奏楽部などの定期演奏会やRevo編集部発行の『Revo』などを通して、都留市民との交流も積極的に図っています。

文化会本部は、平成23年度に向けて引き継ぎが完了致しました。文化会所属の各団体においても新体制の構築に向けて、諸先輩方が築いてきた伝統を引き継ぎ、団体のさらなる発展を今後の目標としています。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方にはご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



本学合唱団「全日本合唱コンクール全国大会」2年連続金賞受賞



クラブ・サークル発表会（桂川祭にて）

氏名・住所等変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXで、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

(1)本学ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届け]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ URL : <http://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のユーザー ID 並びにパスワードが必要となります。

ユーザーID : tsrubun-u パスワード : t10016 (どちら

も半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザー ID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail : dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学同窓会 宛
TEL 0554-43-4341 内線 206 FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

平成21年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位：円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	4,210,000	0	4,210,000	4,210,000	842 人×5,000 円=4,210,000 円
終 身 会 費	8,420,000	0	8,420,000	8,420,000	842 人×10,000 円=8,420,000 円
繰 越 金	2,088,122	0	2,088,122	2,088,122	平成 20 年度繰越金
基 金 繰 入 金	1,100,000	0	1,100,000	1,100,000	名簿発行準備金
雑 入	25,878	0	25,878	192,352	理事会・総会懇親会寸志、預金利息、50 周年記念誌販売
収 入 合 計	15,844,000	0	15,844,000	16,010,474	

◆支出の部

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備 考
事 業 費	7,145,000	0	7,145,000	6,033,711	
会 報 発 行 費	2,700,000	0	2,700,000	2,312,755	同窓会報第 28 号 (平成 21 年度発行)
支 部 助 成 金	3,230,000	0	3,230,000	2,970,000	山梨 東京 神奈川 愛知 静岡 600,000 円 (@120,000 円×5 支部) 兵庫 福島 220,000 円 (@110,000 円×2 支部) 北海道 岩手 宮城 千葉 富山 石川 900,000 円 (@100,000 円×9 支部) 福井 大阪 広島 山形 茨城 三重 岡山 愛媛 徳島 630,000 円 (@90,000 円×7 支部) 鹿児島 鳥取 島根 長崎 熊本 宮崎 沖縄 480,000 円 (@80,000 円×6 支部) 奈良 高知 140,000 円 (@70,000 円×2 支部)
支部設立準備金	450,000	0	450,000	150,000	群馬県支部設立助成金
新 入 学 祝 費	500,000	0	500,000	498,456	
支 部 旗 作 成 費	165,000	0	165,000	52,500	群馬県支部旗作成費
教員採用試験学習会費	100,000	0	100,000	50,000	宮城 静岡 石川 東京 千葉 50,000 円 (@10,000 円×5 支部)
会 議 費	2,000,000	0	2,000,000	1,356,852	
総 会 費	500,000	0	500,000	249,082	
理 事 会 費 等	1,500,000	0	1,500,000	1,107,770	
同 窓 会 本 部 費	1,820,000	0	1,820,000	1,606,818	
事 務 費	100,000	0	100,000	50,882	
運 営 費	1,500,000	0	1,500,000	1,375,936	
慶 弔 費	120,000	0	120,000	80,000	
本部役員活動費	100,000	0	100,000	100,000	平成 21 年度役員報酬
寄 附 採 納	2,000,000	0	2,000,000	1,220,100	法人設立記念時計台寄贈
積 立 金	2,600,000	0	2,600,000	2,600,000	財政調整基金 600,000 円、大学創立記念事業基金 2,000,000 円
予 備 費	279,000	0	279,000	0	
計	15,844,000	0	15,844,000	12,817,481	

(収入済額) (支出済額) (収入・支出差引残高)

¥ 16,010,474 - ¥ 12,817,481 = ¥ 3,192,993

◎基金の増減

◆平成 20 年度末積立現在高	28,199,085 円
◆平成 21 年度中基金取崩 (名簿発行準備金)	△ 1,100,000 円
◆平成 21 年度中積立金 (財政調整基金、大学創立記念事業基金)	2,600,000 円
計	29,699,085 円

基金内訳	
財政調整基金	8,402,425 円
大学創立記念事業基金	21,296,660 円
計	29,699,085 円

第21回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 平成23年7月31日(日)午後2時

○場所 都留文科大学2号館 101教室

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

同窓会の事業である「在学生との懇話会」「模擬面接体験会」等、会員の皆様のご協力で充実したものになってきました。また、宮城県や東京都の支部独自活動から始まった教採対策学習会等の支援活動も各支部へと拡大しています。今年度も各支部より教採対策学習会の開催内容等が同窓会本部に報告されています。今後もさらに充実させていきたいものです。

さて、各位の厚いご協力のおかげで、同窓会総会も重ねて21回目となりました。会員数も平成22年4月1日現在28,799名となり、各界での会員の活動も同窓会報に見られるように素晴らしいものがあります。

第21回の同窓会総会は、全国から参加していただく会員の皆様に良い思い出が残せるように、富士五湖の花火大会が始まる前日の7月31日(日)とさせていただきます。ゆとりがありましたら、是非花火大会をご覧になってください。8月1日の山中湖の報湖祭を皮切りに、西湖・精進湖・本栖湖と湖上で花火大会が続きます。そして最終日の8月5日には、富士五湖最大の花火大会である河口湖湖上祭が行われます。

夏の日の思い出に同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も切に願っております。よろしくお願いいたします。

事務局だより

国文学科創設50周年記念講演会が開催されました

平成22年8月7日(土曜日)、午後1時30分から本学2号館101教室において、国文学科創設50周年記念講演会が開催されました。当日は国文学科名誉教授で元学長の久保木哲夫先生が「国文学と筆跡の認定」という演題で、また同じく名誉教授の鷺只雄先生が「壺井栄論」について講演し、全国から集まった多くの国文学

科同窓生が聴講しました。講演会終了後には本学コミュニケーションホールにおいて記念パーティーが開催され、国文学科の各世代の同窓生や、加藤学長をは

じめとする大学関係者が集まる中、小林義光都留市長の祝辞、国文学科第1期生で昭和38年度卒業の佐藤英雄氏からお祝いの言葉などをいただき、50年の歳月を経た歴史と伝統が感じられる催しとなりました。



記念パーティーの様子



久保木元学長講演



鷺名誉教授講演



加藤学長挨拶



小林市長祝辞



同窓会一期生佐藤氏挨拶



西室理事長による乾杯